

## 訓練種目

### ◆ 基本救助技術訓練の部

#### ○ 救助想定：3種目（災害現場の状況を想定した訓練）

##### 1 応急はしご救助

火災現場などで、建物の2、3階に取り残された要救助者を救出する方法のひとつ。3名1組で地上より訓練開始。建物2階ベランダで意識を失って倒れている要救助者を救出するため、はしごで2階に進入し、ロープを使って要救助者を地上へ救出する訓練。

##### 2 低所（水難）救助

水難救助現場で要救助者を救出する方法のひとつ。3名1組で訓練塔2階より訓練開始。水面（地上部分）で動けなくなっている要救助者を救出するため、救命浮環を投入して要救助者を確保。はしごを吊り下げ、1名が地上に降下後、ロープを使って要救助者を確保し、地上へ救出する訓練。

##### 3 建物救助

建物内から地上部分に要救助者を救出する方法のひとつ。3名1組で訓練塔3階より訓練開始。3階室内で動けなくなっている要救助者を救出するため、要救助者を担架に収容、救出ロープを設定し、ロープ操作により地上へ降下させて救出する訓練。

#### ○ 救助練成：10種目（災害現場活動に必要な基本技術及び応用技術訓練）

##### 1 ロープ登はん

高所への進入方法のひとつ。1名で地上より訓練開始。器具を使わず訓練塔上から垂らされたロープを自力で15m登る訓練。

##### 2 チロリアン渡過

水平方向への進入方法のひとつ。1名で訓練塔3階より訓練開始。ロープで自己確保を作成後、水平に張られたロープ20m（往復40m）をチロリアン渡過（カラビナでぶら下がった状態で渡過）により往復する訓練。

##### 3 登はん降下

高所・低所への進入方法のひとつ。1名で地上より訓練開始。訓練塔上から垂らされたロープを自力で訓練塔上7mの高さまで登り、進入した後、懸垂降下にて地上まで降下する訓練。

##### 4 はしご登はん

高所への進入方法のひとつ。1名で地上より訓練開始。ロープで自己確保を作成後、垂直はしごを15m登る訓練。

## 5 ロープブリッジ渡過

水平方向への進入方法のひとつ。1名で訓練塔3階より訓練開始。水平に張られたロープ20m（往復40m）を、往路はセーラー渡過（ロープ上を腕力で渡る方法）、復路はモンキー渡過（ロープにぶら下がって渡る方法）で往復する訓練。

## 6 ロープ応用登はん

高所への進入方法のひとつ。2名1組で地上より訓練開始。登はん者と補助者が協力し、器具を使わずに訓練塔上から垂らされたロープを自力で15m登る訓練。

## 7 ほふく救出

下水道などの狭い横穴で倒れた人を救出する方法のひとつ。要救助者を含む3名1組で地上より訓練開始。1名が空気呼吸器を着装して、長さ8mの横穴内を通過し、その先に倒れている要救助者をロープにより救出する訓練。

## 8 ロープブリッジ救出

中洲などに孤立している人を救出する方法のひとつ。2名1組で訓練塔3階より訓練開始。1名が水平に張られたロープ（20m）により対岸へチロリアン渡過で渡り、倒れている要救助者に確保ロープを作成後、救出ロープでけん引して救出する訓練。

## 9 引揚救助

地下など低いところで倒れている人を地上に救出する方法のひとつ。2名1組で訓練塔3階より訓練開始。1名が空気呼吸器を着装して訓練塔上から地上へ降下し、救出準備完了後、訓練塔上へ脱出し、2名で協力して要救助者を救出する訓練。

## 10 障害突破

3名1組で地上より訓練開始。災害現場での様々な障害を想定し、3名が協力して「乗り越える」「登る」「渡る」「降りる」「検索する」の基本動作により5つの障害を突破する訓練。

### ◆ 予選会の部：7種目

訓練内容は、基本救助技術訓練の部（救助練成）の7種目と同じ。

- 1 はしご登はん
- 2 ロープブリッジ渡過
- 3 ロープ応用登はん
- 4 ほふく救出
- 5 ロープブリッジ救出
- 6 引揚救助
- 7 障害突破